

提案調査名 「海の生き物」の棲み処（すみか）づくり調査

応募団体名 運河を美しくする会 代表幹事 田邊義博

部局/担当者名 東京ガス㈱エネルギー企画部/榎本和輝

連絡先 TEL 03-5322-7713

Emailアドレス kazueno@tokyo-gas.co.jp

HPアドレス/タイトル http://www.tokyowaterfront.jp/ / 運河を美しくする会

関連主体 NPO等

キーワード 水辺（川、海、港、運河）、環境、防災

推薦団体 東京都港湾局（共同事業として実施）

1. 取組のポイント

- ◆都市部の環境特性を踏まえた「水辺の生き物」の生育環境の検討
- ◆護岸改修整備計画に対し、「自然と触れ合える場」の設置の検討
- ◆整備及び管理面において、公民が連携できる取り組み手法の検討

2. 取組の概要

港区芝浦地区は運河に囲まれた古くからの商店街、住宅地に加え、オフィスビルや近年大規模開発された高層マンション等の居住施設などが混在する街であり、近年では、芝浦運河ルネッサンス協議会が組織され、運河を核にした地域活性化に取り組んでいる。また、芝浦四丁目南地区西側護岸は芝浦アイランドのマンション建設に伴い護岸改修整備が整備される。この護岸は平均水面付近に平場があり、自然との触れ合いの場となることが期待できる数少ないポイントである。

一方で生物がすみやすい護岸には、ゴミが溜まりやすく、定期的な手入れが必要になる等、管理上の難しさがある。

また、東京都は中央防波堤地区では周辺護岸の一部を生物共生型護岸にすることを検討しており、企業、NPO等との協働により、市民ニーズを踏まえた新たな生き物の棲み処を整備できることが期待される。

今回、東京都港湾局より協力依頼を受け、都市における水生生物の育成環境のあり方を模索することを目的に、住民参加による「自然とのふれあいの場」の整備・手法や、アドプト制度等について東京都港湾局と共同で調査を行った。

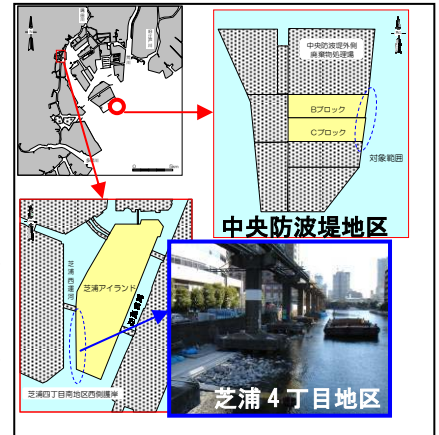


図1 対象地域位置図

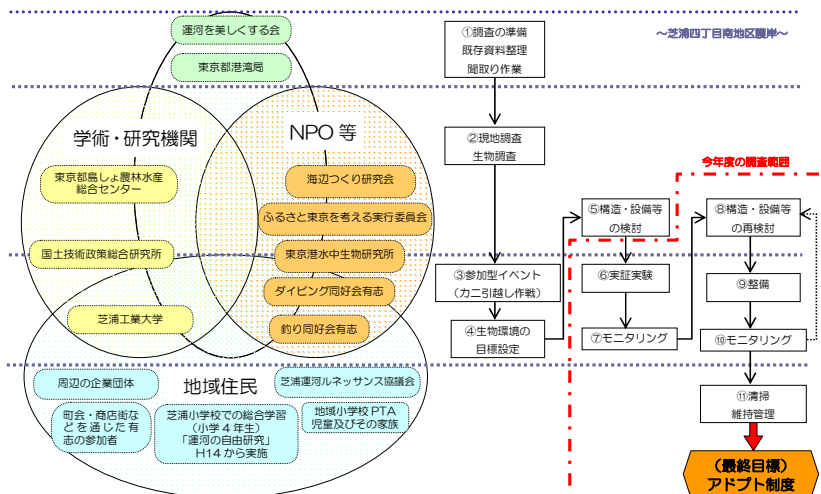


図2 水辺の生き物の棲み処づくりの取り組みイメージ

3. 活動の詳細

(1) 取組内容

■芝浦四丁目南地区西側護岸前面海域

・事務局打合せ（7回開催）：企画会議の趣旨の検討、メンバー選出、既存資料調査として当海域における環境を整理し、棲息可能と思われる生物、環境の整備条件等について事前調査した上で、イベント内容について検討した。

・企画会議（4回開催）：学識経験者、専門家、芝浦運河ルネッサンス協議会、地元企業、NPO等、各10～20名の参加をいただき、今後の取り組みの方向性、スキーム等について検討した。

・事例見学（1回開催）：企画会議のメンバーにより、地域とNPO、行政等との連携した活動の先進事例として、港区立港陽小学校のお台場海苔養殖事業を視察した。

・イベント（カニ引越し作戦）：地域が主体となり、熊谷組㈱、企画会議メンバー及び所属団体・企業等の協力（図4参照）により、建設改修工事により埋め立てられる護岸に棲息しているカニを工事完成後新しい護岸（カニ護岸）に放流するために捕獲した。（子ども50名および地域町会やPTA等の大人39名が参加した。）

■中央防波堤沖（「海の森」(仮称) 周辺)

・アンケート調査：既存資料調査結果に基づき作成したアンケートにより、建設系、コンサル系企業等に対して協働による中防の環境整備に関するニーズを調査した。

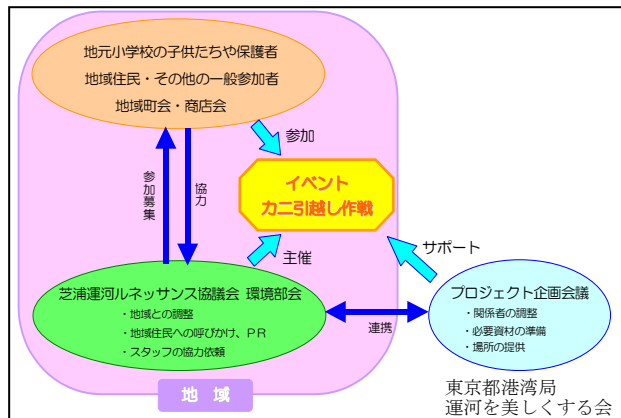


図4 カニ引越し作戦実施体制

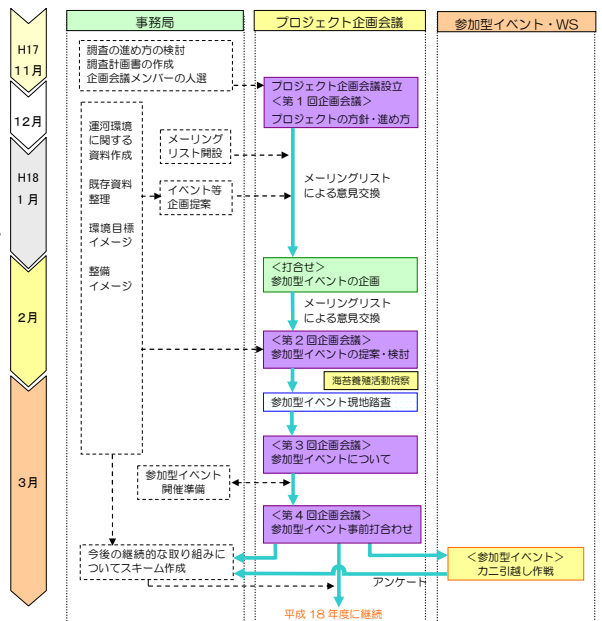


図3 検討フロー

表1 プロジェクト企画会議メンバー

名称	所属
◎志村秀明	芝浦工業大学工学部建築学科助教授
齋藤有里恵	芝浦工業大学大学院建設工学専攻
古川恵太	国土技術政策総合研究所 室長
木村尚	NPO海辺つくり研究会 理事
田中克哲	ふるさと東京を考える実行委員会 事務局長
須賀次郎	東京港水中生物研究会
藤野雅統	芝浦運河ルネッサンス協議会
榎本茂	芝浦運河ルネッサンス協議会
加藤智康	三井不動産(株)
柵瀬信夫	鹿島建設(株)
青木康平	港区区民生活部芝浦港南支所長
小泉正行	東京都島しょ農林水産総合センター 主任
風間真理	東京都環境局自然環境部 主任
◆嶋村與志	東京都港湾局港湾整備部計画課環境計画課長補佐
◆井上尚子	東京都港湾局港湾整備部計画課環境計画係主任
◆榎本和輝	運河を美しくする会(東京ガス㈱)
◆小宮徳明	運河を美しくする会(東京ガス㈱)
◆山岸秀樹	運河を美しくする会(㈱東京久栄)

注)◎はコーディネーター、◆は事務局を示す。



図5 カニ引越し作戦の状況

(2) まちづくりへの効果

■人的ネットワーク：本調査の検討にあり、地域の代表として芝浦運河ルネッサンス協議会、地元企業、NPOおよび地元大学関係者に企画会議設立時から参加してもらった。また、他の地域で活躍しているNPOなどにも参加してもらい、様々な地域や活動内容を跨いだ多様なネットワークを構築することができた。

■合意形成を図るための下地づくり：本調査の企画当初から市民代表も入っていただいたことから、芝浦地区および他の地域の多様な主体が現状認識、課題、今後の方向性についての考え方を共有化することができた。このことにより、今後の活動における円滑な合意形成を図るための下地を作ることができた。

今後生き物の棲み処づくりを進めるにあたって、各主体の想定される役割分担（案）を図6に示した。

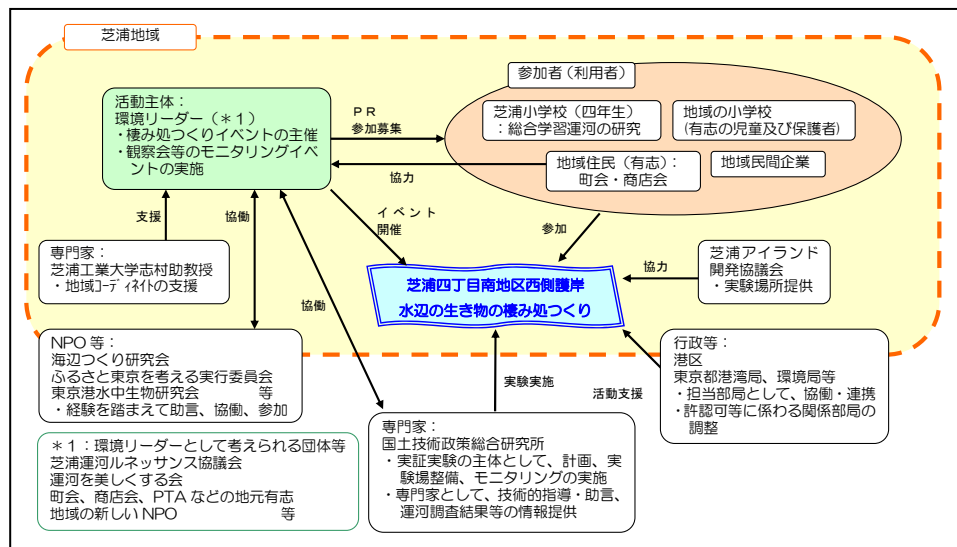


図6 各主体の想定される役割分担（案）

■継続性、発展性：イベント参加者アンケート結果から、継続的参加ニーズが高いことが判明した。今後も生き物との触れ合いの機会を創出することにより、清掃活動などの維持管理も同時に行うといった、地域と連携した活動の継続性、発展性が期待できる。参加者のニーズを踏まえた整備イメージ（案）を図7に示した。

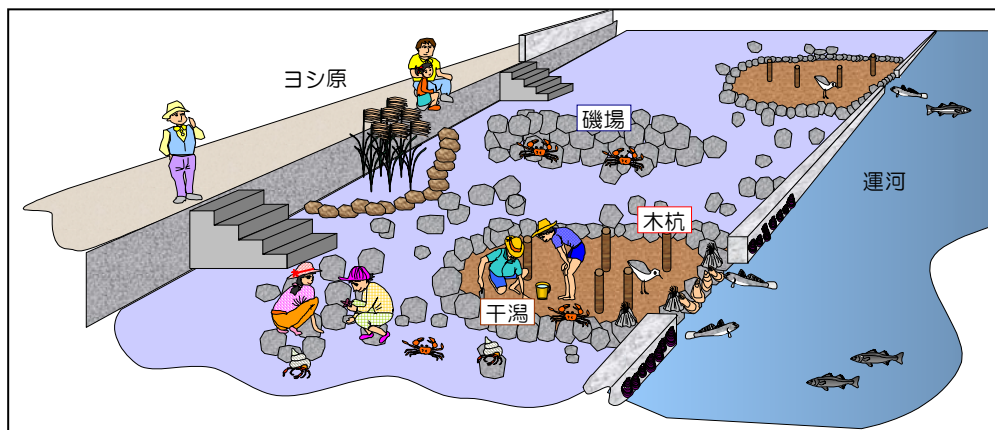


図7 整備イメージ（案）

■企業との協働環境整備のニーズ把握：企業と協働事業を進める際に行政としての留意点は、費用、成果の取扱い等の分担を明確にすることが把握できた。

(3) モデル調査後の展開

モデル調査後には、関係者による様々な取り組みが展開された。それらの一例を以下に示す。

■「カニ引越し作戦」－放流会[芝浦運河ルネッサンス協議会・東京都港湾局・運河を美しくする会]

モデル調査時の「カニ引越し作戦」と同じ体制で、捕獲して飼育してもらっていたカニを新たに施工された緩傾斜護岸に放流した（子供 75 名、大人 54 名の合計 129 名が参加）。なお、放流会は芝浦運河沿いで開催されたザコ市と連携し、ザコ市会場と放流会会場を結ぶクルーズ船の乗船により、芝浦の街を運河から見学してもらった。



図 8 カニ引越し作戦－放流会の様子

■運河の生き物の棲み処づくり調査 [国土技術政策総合研究所]

国土技術政策総合研究所（以下国総研）が東京都港湾局との共同研究としてカニを放流した護岸における生き物の棲み処づくり（潮溜まり、砂干潟）の基礎研究を鹿島建設の協力を得て実施している。

■芝浦運河 海の顔・川の顔調査 [国土技術政策総合研究所]

国総研が芝浦運河ルネッサンス協議会、NPO 海塾、鹿島・池田建設 JV、東京都港湾局等の協力のもと、芝浦周辺の運河の水質調査「芝浦運河の海の顔・川の顔調査」を実施し、運河の流れ、水温、塩分の分布状況などについて把握した。

これらの実験、調査の内容・成果については、住民への説明会等を通して還元され、実験への参加を呼びかけていく予定である。

（上記の取り組みについては国総研ホームページ <http://www.meic.go.jp/shibaura/>を参照）

■運河の生き物の観察会 [運河を美しくする会]

運河を美しくする会が実施した芝浦小学校の夏講座において、前述した運河の生き物の棲み処づくり調査の追跡調査の実施状況を鹿島建設の協力を得て見学させてもらい、潮溜まりにいたボラ、ハゼ、エビ等の生き物を見て、触れてもらい、運河の生き物の観察会を行った。参加児童は、きたないと思っていた運河に豊かな自然があることを感じ、驚き、そして喜んでいる様子であった。



図9 運河の生き物について説明を受け観察する芝浦小学校の児童たち

4. 本調査の実施課程で顕在化した課題など

- ・市民のニーズである自然体験活動の場、機会の提供。
- ・地域で運河について考え、継続的に活動するための「カニ」以外の興味あるテーマ、題材の準備とそのPR。
- ・上記の課題を対応し継続的、発展的に活動するための活動主体、リーダーの育成。
- ・活動にあたっては、様々な経費、活動資金が必要となるが、誰が、どのように負担するか（参加者負担、行政の補助など）。